

令和 5 年 7 月 22 日

文教厚生常任委員会

委員長 綾城 美佳 様

文教厚生常任委員 岩藤 睦子

文教厚生常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

記

1. 視察期日及び視察先

令和 5 年 7 月 11 日（火） 北九州子どもの村小・中学校（学校法人きのくに子どもの村学園）
「公教育のあり方について」

2. 視察参加名簿

委員長	綾城 美佳
副委員長	米弥 又由
委員	林 哲也
委員	岩藤 睦子
委員	中平 裕二
委員	上田 啓二
委員	江原 健二
委員	ひさなが 信也

以上 8 名

3. 視察報告・所感 別紙

(別紙)

視察先	北九州子どもの村小・中学校（学校法人きのくに子どもの村学園）
視察日時	令和 5 年 7 月 11 日 10：30～12：00
視察項目	公教育のあり方について
対応部署名	高木秀実 校長
学校概要	北九州子どもの村小・中学校は学校法人きのくに子どもの村学園の一つで全国に小中高 6 校存在する。1992 年、和歌山県橋本市できのくに子どもの村小学校開校が始まり。戦後はじめて学校法人として認可された自由な学校で、子どもたちの多くが寮生活を送りながら学んでいる。 堀学園長 「たのしいから学校。たのしくなければ、学校じゃない」 《教育目標》 ●感情面の自由 ●知性の自由 ●人間関係の自由 《基本方針》 ●自己決定の原則 ▶子供がいろいろなことを決めます ●個性化の原則 ▶一人ひとりの違いや興味が大事にされます ●体験学習の原則 ▶直接体験や实际生活が学習の中心になっています 《授業について》
視察内容	
①【学校の概要を伺う】 ②【意見交換】 学校としては主体的に生きて欲しいと思っている。先生と呼ばせていない。発達障がいと言われ入って来ても学習障害はほとんどない。教え込む、形にはめる、詰め込む教育に危惧する。トラブルや学習においても話し合いで解決。資金集めが大変だった。2006 年 20 人集まるのに 5 年かかった。近所との交流は平尾台国定公園内にあり住民が高齢化しており、以前は運動会もしていたができなくなった。若手が 60 代の地域。今は、昔のくらしを学習する時、聞きに行くくらい。 卒業生の 7～8 わりは大学に行っている。進学率が高い。定期テストが無いので最初は点が低い、慣れて来ると点は取れるようになる。 ③【学校内見学】	



質疑の様子



高木秀実校長



卒業生が書いた北九州子どもの村小・中学校



授業の様子



教室の前に稲が水槽に植えてある（根の様子がわかる）



授業の様子



溝に橋をかけている



北九州子どもの村小・中学校

所 感

昨年「夢みる小学校」の映画を見て興味を持った。みそを作る場面があった。材料は何か必要か。作る工程は。ねかせる期間は。子ども達が話し合い、調べたり大人に聞いたりして考え行動していく。大豆を育ててみる。米を育ててみる。核家族が増える今、異年齢で人とのかかわりが少なくなる中、このような体験型の学習は、生きていく上で人として大切なことだと思う。

今や情報は直ぐに取れる時代だ。学校法人きのくに子どもの村学園は「感情面の自由、知性の自由、人間関係の自由」を教育目標に掲げている。自由は自己責任がつくが、ここではよく話し合いをする。自分の意見には責任が付く。小さいうちから話し合うと人のせいにはできないだろう。（全員がそうとは限らないと思うが。）これからの教育は体験とコミュニケーション力が求められると考える。

2022年度から高校で「総合的な探究の時間」が始まっている。予測不可能な現代社会において、自らの意思で進路選択を行え、社会で生き抜くために必要な資質や能力を育成することの重要性が高まっているそうだ。長門市においてもたくましい子どもに育て欲しいと願うが、子育て支援がサービス重視になってはいないか。今一度、教育のあり方を考え直す必要があると考える。

しかし、教育を税金で賄っている長門市において、学校法人きのくに子どもの村学園のやり方を公教育に取り入れていく難しさはあると思うが、地域やPTAなどと長門市独自の自然に恵まれた良さを活かしたカリキュラムを更に向上させることはできないだろうか。